

出羽三山

大浦を歩く

出羽三山とは、山形県(出羽国)にある月山、羽黒山、湯殿山の三つの山の総称です。午年の今年は、羽黒山午歳御縁年にあたることから、市内に残る「出羽三山供養塔」から信仰の足跡をみることにしましょう。

千葉県は、関東地方の中では出羽三山信仰が最も盛んな地域とされ、各地に結成された講の代表者が巡拝したとされています。

市内では調査の済んだ旧八日市場市域で、1781年から1863年までの間に12基の「出羽三山供養塔」が立てられたことが確認できます。

供養塔は正面中央に「湯殿山」、左右に「月山」「羽黒山」とあり、講員の名前も刻まれています。出羽三山に加え「西国・秩父・坂東」の百観音霊場巡りも含めた供養塔もあります。

供養塔に刻まれた講員数は3人から50人ほどまでさまざま、中には近隣2、3か村の人たちで同行を構成している例もみられます。これらに名を連ねた人たちは、村内では名主など富裕層だったのでしょう。

日本最古のミイラ仏として知られる弘智法印ゆかりの寺・大浦蓮花寺には、3基の出羽三山供養塔があります。

同村の江波戸市郎右衛門は1803年に、「先祖菩提」の供養と「家内安全」を祈って出羽三山供養塔と「西国・秩父・坂東供養塔」を立てました。おそらく自

らの足でこれらを巡拝し、その記念碑として造立したのでしょう。

1813年には同村の江波戸、太田、椎名、鈴木、宮崎、勝股姓の12人で塔を立てており、この頃には「大浦講」が存在したのでしょう。それから50年後の1863年の供養塔には、講員も30人ほどに増え名とともに「大浦講」「案内」「先達 福姓坊」と刻まれている、毎年代参が行われていたとみられます。

市内では出羽三山への道中日記などはみつかっていませんが、「飯岡町史」に載る1843年の「奥三山袖日記」が当時の旅の様子を伝えてくれます。

それによると、現在の埼玉、群馬、長野、新潟県を通り、出発から1か月ほどかかって山形に。3日をかけて出羽三山を参拝したのち宮城・松島へ出て、そこから太平洋側の福島、茨城を経て帰郷した54日間にわたる長旅でした。

それほどまでして信仰した人たちの祈りが、供養塔には込められているのでしょう。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



蓮花寺にたつ出羽三山供養塔